（様式１－１）

県立太田第一高等学校附属中学校【総合的な学習の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な学習の時間の第１の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
(2)　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3)　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

主体性を尊び、心身共に健康で、社会や国家に貢献し得る有為な人材の育成に努める。
(1)　６年目を迎えた中高一貫教育校の特長を活かし、中高連携の強化と６年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現に努める。
(2)　心の教育と体験活動を大切にして、豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努める。
(3)　探究を軸とした学びのスタイルの質を高め、課題解決能力の向上に努める。
(4)　ねらいを明確にしてＩＣＴを効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。
(5)　様々な体験活動を通して、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。
(6)　予測困難な社会に目を向け、他者と協働しながら、主体的に諸課題を解決することができる資質・能力を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

地域課題についての継続的な探究活動をとおして、実社会や実生活において生きて働く資質・能力を育成する。
(1)　自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するとともによりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
(2)　多様な学び方やものの考え方を身に付ける。
(3)　問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てる。
(4)　自己の生き方や考えることができるようにする。

総合的な学習の時間の学習評価

(1)　学習課題に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け探究的な学習のよさを理解している。
（知識・技能）
(2)　実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方を用いて、自分で課題を立てて情報を集め、整理してまとめて発表している。
（思考・判断・表現）
(3)　実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に次の課題に取り組もうとしている。
（主体的に学習に取り組む態度）

生徒の実態

・純朴で素直な気質をもち、温和である。
・将来の夢や希望をもっているが、具体的な職業観についての認識は十分でない生徒も見られる。
・自主性・積極性にやや欠け、目標に向かって粘り強く努力する姿勢がやや低い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・生徒の興味・関心を重視し、課題に向かう意欲が持続できるよう働きかけをする。
・ＩＣＴ機器の効果的な活用により、生徒の特性に応じた調べ方やまとめ方を示す。
・共通または類似する課題の生徒と協働で学習を進められるよう支援する。
・個別面談などの個人指導の実践。

目指す生徒の姿

・何事に対しても真摯に誠実な心で向き合う人間性豊かな生徒
・心身共に健康でたくましく、豊かな心で社会に貢献できる生徒
・自ら進んで課題に取り組み、新たな価値を創造する生徒
・次世代を創造し、グローバル社会をたくましく生き、世界にはばたく生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

○探究課題

１年：自分や地域を知る	イングリッシュスタディ、常陸太田市の文化・産業等
２年：日本を知る	国内語学研修、職業体験等
３年：世界を知る	海外体験留学、世界の中の地域・自分等

○育成を目指す資質・能力

【個別の知識や技能（何を知っているか・何ができるか）】
・自ら課題を発見し、自ら学び考え、適切に問題を解決できる。

【思考力・判断力・表現力等（知っていること・できることをどう使うか）】
・情報収集の仕方、調べ方、まとめ方及び報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付け、課題解決に向けて主体的・創造的に取り組む。

【学びに向かう力・人間性等（どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか）】
・自己を見つめ、現在や将来について真剣に考え、主体的に進路を選択し、生きがいのある生活を実現していくという自己の生き方について考えることができる。

学習活動、指導方法等

１　生徒の課題に応じて、学年主任兼担任１名、学級担任１名、副担任２名で分担して指導にあたる。必要に応じて高校の教員も指導にあたる。
２　外部講師による講話や、施設見学、職業体験など、様々な体験活動を取り入れ、体験に根ざした学びをとおして、自らの考えを深め、まとめさせる。
３　生徒の主体性を生かした探究的な学習を充実させ、探究のプロセスにおける「整理・分析」及び「まとめ・表現」の指導の充実を図る。

→①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→
↑ ←――――――――――――――――――――――――――――――→ ↓

４　ＩＣＴ遠隔システムやメール、電話または訪問等により、地域人材、企業・施設等に積極的に関わり、多面的・多角的な調べ学習を進めるとともに、地域や社会への関心と誇りを高める。
５　学習支援ソフト（Classi ポートフォリオ）を活用した活動の蓄積と振り返りをとおして、学習の質を高める。
６　附属中７校が連携した探究意見交換会・探究成果発表会及び高校と合同での成果発表会を実施する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・全職員が指導にあたるとともに、課題や活動の内容に応じて高校籍教員も対応する。
・図書室の効果的な利用を促進するとともに、ＩＣＴ機器の整備及び積極的活用を図る。
・生徒の学習活動を支援してくれる地域の教育資源・人材を発掘し、適宜連携・協力が求められるような関係づくりをする。
・学校公開日に学習の経過や成果を発表するほか、ＨＰや学習支援ソフトを通じて生徒の活動について広報する。
・Ｒ２、４年開校７校の附属中ほか、地域の小中学校と連携し、積極的に情報交換・共有ができるようにする。
・高校と合同で成果発表会を実施する。